

中国

台湾前総統 訪英に反発

嚴重抗議「なお祖国分裂活動」

【北京27日＝山本秀也】台湾の李登輝前総統が英国訪問に出発したことを受け、中国外務省は二十七日、外交ルートを通じて英国政府に嚴重抗議したことを明らかにした。「どんな身分や名義での外国訪問にも断固反対する」（朱邦造・同省報道局長）といった激しい反発は、李登輝氏が完全な「私人」という立場を生かして対外活動を展開することへの警戒であり、訪英の延長線上に米国、日本などの主要国訪問の影を見越したけん制にほかならない。

朱局長は「李登輝は普通の公民ではない」としたうえで、中台を「国と国の関係」とした昨年七月の「二国論」など中国が李氏に下した「罪状」を重ねて指摘。「公職を辞めたとはいえ、依然かたくなに台湾獨立を堅持し、祖国の分裂活動を続けている」と述べ、無冠の李氏が持つ影響力への懸念をにじませた。

さらに、朱局長はいかなる李登輝氏の外国訪問にも反対するとともに、訪問受け入れ国に対して「李登輝の祖国分裂、統一破壊の行い」に場所を提供すること（○）に関するセミナーを二

に反対する」と警告した。これは、唐家璇・中国外相が今年三月の記者会見で、李氏の訪日が発現すれば「中日間に長年築いてきた友好協力関係を根幹から危うくする」と述べたことと一致する。

中国側としては、李登輝氏の訪問受け入れ国には対中関係の後退という「代償」を支払わせることで、構えた。

中英の外務当局は、フー・英国防相を北京に迎えて国連平和維持活動（PKO）に関するセミナーを二

十八日まで開催。二十七日夕の時点でめだつた「代償」は表面化していない状態だ。

江沢民・中国国家主席は二十六日、台湾工業総会の視察団と北京で会い、台湾当局による「一つの中国」原則の確認が「平和統一」の前提であると述べるなど、中国側では原則重視の中台交流が続いている。二十七日からは、李登輝政権の金庫番と呼ばれた劉泰英・前国民党投資事業管理委員会主任委員が中国東部の山東省を訪問、中国側との接触に関心も出ている。